

ESG			SDGs	ESG/SDGsに関わるリスクと機会		リスクと機会が顕在化した 場合のインパクト※1	リスクと機会 分析結果	リスクと機会のタイプ	発現時期	ESG/SDGsに関わる 当社グループの課題 ※3	シナリオ分析結果	
E	S	G		リスク	機会		重要度 ※2				2℃以下 シナリオ 重要度 ※4	4℃ シナリオ 重要度 ※4
○	○		  	○		地震、台風などによる 大規模災害の頻発・激甚化	5	物理的リスク(急性)/ 移行リスク(法規制・市場)	短・中・長期	1.持続可能な 社会インフラへの貢献		
					○	国内人口の減少に伴うニーズに 適合しない社会資本ストック の増加	5	製品とサービス、市場	短・中・長期			
	○				○	地域社会・企業との連携の促進	3	製品とサービス、市場	短・中・長期	1.地域社会・企業との連携		
	○		 		○	ICTの発展と建設技術への応用	4	製品とサービス、市場	短・中・長期	1.ICTによる技術力と 生産性の向上		
	○		 		○	高品質インフラの需要の高まり	3	製品とサービス、 レジリエンス	中・長期	1.施工品質の確保・高度化		
	○			○		空き家や空き店舗、 老朽建物の増加	3	物理的リスク(慢性)/ 移行リスク(市場)	中・長期	1.不動産ストックの 有効活用		
○			  	○		気候変動にともなう気温上昇や 環境に配慮しない開発による 自然環境の破壊	5	物理的リスク(急性・慢性)/ 移行リスク(法規制・評判)	短・中・長期	2.環境に配慮した 事業の推進★	5	5
○			 	○		気候変動にともなう炭素税 (カーボンプライシング)の 導入による材料・外注費の高騰	4	移行リスク (法規制・市場)	短・中・長期	2.脱炭素化の推進★	4	3
○	○		  	○		建設資材に含まれる 天然資源の浪費	3	移行リスク(市場)	中・長期	2.リサイクルによる 資源の有効活用		
○			 		○	気候変動への対策となる建築物の 省エネルギー化需要の増加	4	製品とサービス、市場	短・中・長期	2.建築物の 省エネルギー設計★	4	3
○			 		○	気候変動への対策となる クリーンエネルギー需要の高まり	4	製品とサービス、 エネルギー源、市場	短・中・長期	2.再生可能エネルギー事業 の推進★	4	3
	○		 		○	業務効率化による 長時間労働の削減、 処遇に関する評価制度及び 職場環境の変化	5	製品とサービス	短・中期	3.ウェルビーイングを 実現する職場づくり		
	○				○	働き方の多様化と 雇用流動化の進行	4	製品とサービス	短・中期	3.ディーセントワークの 推進		
	○		  	○		労働環境における多様性の欠如	4	物理的リスク(急性)/ 移行リスク(市場)	短・中期	3.ダイバーシティ経営の推進		
○	○		  	○		気候変動にともなう気温上昇に よる労働環境の悪化	3	物理的リスク(慢性)/ 移行リスク(市場)	短・中・長期	3.機械化・省力化・効率化 の推進★	3	4
		○	 	○		企業倫理・コンプライアンスに対す る意識の希薄化	5	移行リスク (法規制・市場)	短・中・長期	4.コーポレート・ ガバナンスの強化		
	○	○		○		危険をともなう労働環境	3	物理的リスク(急性)/ 移行リスク(市場)	短・中期	3,4.安心安全な労働環境		

主な追記・修正箇所は赤字にて示しております。

※1 リスクに関しては負のインパクト、機会に関しては正のインパクトを記載しています。

※2 発生可能性と影響度の2軸で重要度を評価しております。1～5の5段階で評価し、5が最も重要度が高いことを示しています(5：極めて高い、4：高い、3：中程度、2：低い、1：極めて低い)。

※3 ESG/SDGsに関わる当社グループのマテリアリティ（重要課題）は太字下線で示し、語頭の数字は各マテリアリティとの関連性を示しています。★印は、気候変動に関連した課題を示しています。

※4 「2℃以下シナリオ」及び「4℃シナリオ」に基づく検討（シナリオ分析）により、気候関連のリスク及び機会が組織に及ぼす影響を分析し、発生可能性と影響度の2軸で重要度を評価しました。